

白山市立蝶屋小学校



学校だより

令和8年9月11日
前期学校評価号

1. 令和8年度 前期 学校評価結果とその分析と今後の取組

	重点項目	児童アンケート	A 値 A B値 (%)	保護者アンケート	A 値 A B値 (%)	教職員アンケート	A 値 A B値 (%)	分 析 と 今 後 の 取 組
共通	学校生活	学校は楽しい	48.0 87.0	お子さんは、「学校は楽しい」と思っている	52.8 93.1	子どもたちは、学校で楽しく過ごしている	56.5 100	学校が楽しいと肯定的評価をした児童の割合は、昨年度と比較して減少が見られました。学習内容の難化や生活環境の変化、人間関係の悩み学校生活への不安等に加え、一人一人が達成感や自己有用感を実感する場面が十分でなかったことが一因と考えられます。今後も日常的な声掛けや毎月の「心のアンケート」を活用し、児童の不安や困り感を早期に把握・対応します。また、学級活動・児童会活動などを通して、互いを認め合い安心して過ごせる学校づくりを推進します。
	自己肯定感	自分には、よいところがある	42.3 84.6	お子さんのよいところを、お子さんに伝えている	48.6 97.7	子どもたちの自己肯定感が向上するよう、努力や過程を認める声かけや児童同士の関わりを大切にした教育活動を行っている	69.6 100	自分にはよいところがあると実感している児童は42.3%で、昨年度より増加しました。学校行事や日々の授業において、主体的に活動する場面や努力を認め合う機会が増えたことが自己肯定感の向上につながったと考えられます。引き続き、日常の授業や生活の中で児童一人一人のよさや頑張りを積極的に「ほめて、認めて、励ます」声掛けを行い、自己肯定感を高めていきます。
確かな学力の育成	わかる授業	授業は、わかりやすい	57.7 92.3	お子さんは、「勉強は分かりやすい」思っている	30.1 82.9	ねらいを（育みたい資質、能力）を明確にし、子供一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業を行っている	50.0 100	授業で「わかる」と実感する児童の割合が向上しました。（前年より児童のA評価が2.7%、保護者のA評価が9.0%増加。）学校研究の重点を意識した子供主体の授業づくりの成果が表れています。後期も研究授業を中心とした児童主体の授業実践を教職員全員で取り組んでいきます。また、理解に課題が見られる児童への個別の手立てや学習内容の振り返りの充実を図ります。
	学び合い （伝え合う力）	相手の話を分かってあげようと聞いたり、相手に分かってもらおうとして話したりする	60.6 92.3			相手の話を分かってもらうとして聞く、相手に分かってもらおうとして話す、など相手意識をもって伝え合う指導をしている	73.9 100	授業の中で自分の考えを伝える場（アウトプットの機会）を意識的に設けたことで、児童の伝え合おうとする意識が高まり、高い成果が得られました。今後も多様な学習形態で発表や意見交換等の機会を確保し、良い伝え合いのモデルを児童と共有して、「話し合いによってわかった・できた」という達成感につなげていきたいと思います。
	家庭学習	家庭学習に取り組むことができている	65.0 92.3	お子さんは家庭学習に取り組むことができている	38.9 83.8	児童が毎日、家庭学習に取り組めるように指導したり、取り組みやすい児童にできるまで粘り強く支援したりしている	44.4 100	家庭学習に安定して取り組んでいる児童の割合は65.0%となり、着実な定着が見られます。一方で、学習内容の難しさ等により、十分に取り組めていない児童もあり、個人差が見られます。定着が難しい児童に対して個別のアプローチを行い、その子に合った家庭学習の取り組み方をご家庭とも連携しながら一緒に考えていきたいと思います。
豊かな心の育成	いじめなし	いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている	65.4 88.2	お子さんは、いじめられたり、無視されたりすることなく、安心して過ごしている	62.0 94.0	子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している	90.5 100	毎月のアンケート等で児童が困り感を伝える場があり、小さなことでも教職員が組織的に素早く・丁寧に対応してきたことが、安心できる環境づくりにつながっています。引き続き、日常の授業や行事で互いの頑張りを認め合う場を設定し、前向きな言葉（Good言葉）を意識して、いじめの未然防止とあたたかい人間関係づくりに努めていきます。
	思いやり	友達に対して、やさしく話したり、行動したりしている	59.8 97.2	お子さんは、友達に対して思いやりの心を持って行動している	43.5 96.3	相手意識をもった思いやりのある言動ができるように指導している	87.0 100	肯定的評価が97.2%と友達にやさしく接しようとする意識は定着してきています。一方で、親しい友達以外や意見の異なる相手に対して、場面に応じたやさしい言動をとることには少し課題も見られます。今後も、友達の良いところに目を向け、それをお互いに伝え合う機会を設定して、相手の立場を考えた言動ができる心を育てていきます。
	あいさつ	友だちや先生、見守り隊や地域の方に気持ちのよいあいさつをしている	72.4 96.3	お子さんは、日常的に「おはよう」「おやすみ」「いってきます」「ただいま」などのあいさつをしている	69.0 94.4	自ら率先垂範であいさつし、友達、先生、来校者、見守り隊、地域の方に、気持ちのよい挨拶ができるように、指導している	81.8 100	高学年を中心に気持ちのよいあいさつが増え、下級生にも良い影響を与えています。一方で、相手や場面による声の大きさなど「気持ちのよいあいさつ」の認識に一部差が見られます。「自分から」「相手の顔を見て」「届く声で」といった具体的な姿を児童と共有し、教職員も率先して実践し、学校全体であいさつが行き交う雰囲気を作っていきます。
健やかな体の育成	体力向上	体育の時間や休み時間の運動を通して、ジャンプする力や力強さがついてきている	55.7 87.8			体育の時間等に、めあてを持ってねばり強く取り組めるように工夫している	57.1 100	児童の肯定的評価が前年度と比較して大きく減少しています。多くの児童が体育や休み時間の運動に取り組んでいますが、「力強さ」という言葉の認識に個人差があったのではないかと考えます。後期は、全校で「8の字跳び」「壁タッチ」に取り組み、楽しみながら跳躍力を高めていきたいと思います。
	生活習慣 （食への感謝）	感謝して給食を残さず食べるようにしている	71.7 92.7	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して生活している	45.4 82.9	感謝して給食を残さず食べるよう指導している	94.7 100	多くの児童が給食を残さず感謝して食べよう意識しており、配膳や片付けのマナー指導も定着しています。今後も、良い片付けができているクラスを紹介する等の取組を続け、感謝の気持ちとマナーを守る意識を高めていきます。
	自己有用感	「自分たちの学校は自分たちでよくする」という思いを持ち、係や委員会などの役割を果たしている	56.1 93.5	お子さんと話す時間をとっている	49.1 95.8	「自分たちの学校は自分たちでよくする」意識を持たせ、自分の役割を果たせるよう指導している（係・実行委員・委員会など）	47.6 100	児童のA評価が昨年度より下がっています。高学年では、委員会や集会発表等での活躍により肯定的評価が高くなっている一方、中学年以下では肯定的評価が下がっています。1～4年生の「自分たちでよくする」意識の向上が課題です。委員会活動の工夫を見える化し、低学年から見通しを持たせると共に、学級内での役割や頑張りを認めていきます。
家庭・地域との連携	情報発信			学校は、児童の活動の様子を日常的な連絡や便り等で伝えている	46.8 92.6	学校の活動や児童の様子を日常的な連絡や便り等で伝えている	42.9 95.2	今年度は、各種おたより配信に加え、ホームページのブログ更新や「道徳だより」の発行を行っています。9割以上の保護者の方から肯定的評価をいただいておりますが、日常的な連絡という点で学校との認識に差があるのではないかと考えます。今後も定期的なおたより配信とホームページのブログ更新により、お子様の学校での様子や頑張りを分かりやすくお伝えできるように努めます。
業務改善	働きがい					今の仕事にやりがいや誇りを感じている	43.5 95.2	肯定的評価が9割を超えており、多くの教職員が仕事に対してやりがいを感じている一方で、日々の業務量の多さや生徒指導の多様化により、誇りを感じるまでに至りにくい現状があります。本校では、子どもたちの成長を喜び合える環境を大切にします。 unnecessary業務の見直しや精選を進め、教材研究や児童一人一人と丁寧に向き合う時間をしっかりと確保することで、教職員がやりがいを持って教育活動に専念できるよう取り組んでまいります。
	働き方改革					年次有給休暇を取りやすい雰囲気がある	39.1 69.6	人員不足の影響により、「自分が休むことで学校運営に支障が出るのではないか」「自分だけ休みを取るのが申し訳ない」という意識が生じ、年次有給休暇が非常に取りづらい状況にあります。学校全体でお互いの業務をカバーし合い、必要な年次有給休暇を気兼ねなく取得できる雰囲気づくりを進めます。日常的なコミュニケーションを密にして、見通しを持った勤務環境を整えていきます。

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、7月に実施いたしましたアンケート結果についてご報告いたします。ほぼ同じ時期に実施しました児童アンケートの結果や学校職員による評価と併せて、アンケートの結果をご報告いたします。この結果を、今後、子どもたちの育成に生かしていきたいと思います。アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

※回答は、「A：あてはまる」「B：ややあてはまる」「C：ややあてはまらない」「D：あてはまらない」から選択。
左表中の数値は、そのうちの「A」の割合（上段）と「A+B」の割合（下段）を示しています。（%）

2. 保護者アンケートのご意見より

- 「いつも子どもたちが学校生活を安心して過ごせるように配慮していただいてありがとうございます。最近では不審者が出たとき、子どもが病気になる時など、いつも迅速で丁寧な対応をしてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。毎朝子どもたちを元気な姿で送りだせる事は学校が本当に楽しみだからだと思い、親として安心と嬉しい気持ちでいっぱいです。またよろしく願います。」
- 本校の対応についてご理解いただき、ありがとうございます。日頃から、自然災害や不審者・害獣出没等、予測不能な事案が発生すると想定し、職員一同、危機管理意識を高めています。今後も、不測の事態が起こった時には、迅速に保護者の皆様・見守り隊の皆様へ情報発信を行うよう努めてまいります。ご協力の程、よろしくお願いいたします。
- 「勉強がわからないまま進んでいて、具体的な対策や相談などもっとしたいです。先生とのコミュニケーションが学期末の一回なので、少ないように思います。少人数制も検討して頂きたいです。」
- コミュニケーションの機会がなかなかとれず、申し訳ありませんでした。学習は積み重ねが大事ですので、お子様が疑問に思ったすぐその時に解決したいと思います。わからないことがあれば、いつでもお問い合わせください。また、少人数制に関しましては、学習の形態の一つとして検討していきたいと思います。
- 「先日、熊が出たことによって集団下校になりましたが、熊などの野生動物の場合は引き渡しの方がいいと思います。集団下校になってもお迎えの子や学童の子が多くて実際は少ない人数での下校になっていました。集団下校だから大丈夫だと思っていたけど、子供から人数が少なかったことを聞いたら、迎えに行けばよかったなと思いました。」
- 1学期は、美川地区でも相次いで熊目撃情報があり、不安に感じた保護者の方が多かったのではないかと思います。熊に限らず、児童に危険が及ぶ可能性がある事案につきましては、白山市教育委員会と連携して対応を考えています。今後も状況を見ながら、集団下校または児童引き渡しの判断をしていきたいと思います。急な対応となりますが、児童の安全のためにご協力をお願いいたします。

3. 学校運営協議会での主なご意見

- ・自分の考えを伝える場は大事ですね。授業の中だけでなく、大勢の前で発表する機会もあると、子どもたちは頑張りますね。みのり発表会が楽しみです。
- ・「チャレンジタイム」で、人とかかわりながら学ぶのはとてもいい取組です。続けていてほしいです。
- ・幼児教育でも、自分で発信できる子を育てて小学校へ上げたいと思っています。ただ、今の子どもたちは失敗するのが苦手だなと感じます。失敗させないことで壁にぶつかったときに折れやすくなっていますね。心配です。
- ・教職員の業務改善についてですが、どこに時間をかけているのか一度分析するといいですね。どこを改善したらいいか、投げかけてもらえたら協力しますよ。
- *****
学校運営協議会のみなさん
ありがとうございます！

運営協議会 会長 根上 宏之 様
運営協議会 副会長 吉川 優子 様
運営協議会 委員 吉倉 陽子 様
運営協議会 委員 山本 洋平 様
運営協議会 委員 盛本 喜治 様
運営協議会 委員 木村 牧子 様
